

# 部活動指導員と地域移行のバランスは

中村 文武議員

同じ時間同じ場所で地域展開を進める  
教育部長



**問** 部活動指導員と地域移行のバランスは。

**答** 部活動指導員は、令和10年度に教員の休日ににおける部活動指導の廃止を目指している中、7年度に14人配置し、8年度には30人に増員する計画だ。今の部活動と同じ種目を同じ場所、同じ時間で実施し、指導や運営の一部を段階的に地域展開することで、無理のない移行を目指す。

13年度までに、休日に活動する全ての部活動の地域展開を図る。

**問** 部活をやりたい子がいるのに、どうしてやらせてあげられないのか。

**答** 部活動をやりたくないという生徒もいると聞く。

その上で、現状の部活動体制における教員の働き方改革と生徒の多様なニーズの両立という課題に対応するため部活動に地域全体で支える仕組みへと転換することを目指し、部活動の地域展開に関する実証事業の実施や、生徒が継続してスポーツや芸術文化活動に親しむ機会を確保するために、

部活動指導員の配置に取り組んでいる。

**問** 部活動は現在任意制である。部活をやりたいという多様性を私は奪っていると思えていますが、社会としてそれが適切なのか、学校教育とは公教育とは一体何なのか教育長に伺う。

**答** 公教育とは、全ての子どもに等しく学びと成長の機会を保障する責任を負う。学力の保障だけでなく、意欲を持つ子どもが成長する場を保障することも含まれる。部活動を希望する生徒の活動機会の確保、学校内外を含め、安心・安全で質の高い活動の場をどう構築するか、経済的事情や地域性によって子どもの機会が左右されないよう、どう配慮するかといった点を重く受け止め、専門性の高い部活動指導員を確保して地域展開を進める。

佐織庁舎西と小津町の歩道整備は

**問** 佐織庁舎西側水路と小津町内の県道の歩道整備は。

**答** 小津町地内の歩道設置については、現在、現時点では歩道設置の計画がない。

佐織公民館西側の用水路は、地盤沈下対策事業によってパイプライン化する予定があり、工法等について現在検討を行っている。

## その他の質問

● 行政改革と市民サービス削減のバランスは

完成した暗渠と未完成部分



▲佐織庁舎西側用水路